



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 竹山 昭
1部60円年間千共1100円

教会のこよみ

1日	神の母聖マリア
4日	主の公現
11日	主の洗礼
18日	年間第二主日
25日	年間第三主日

1月18日・25日は
キリスト教一致祈禱週間

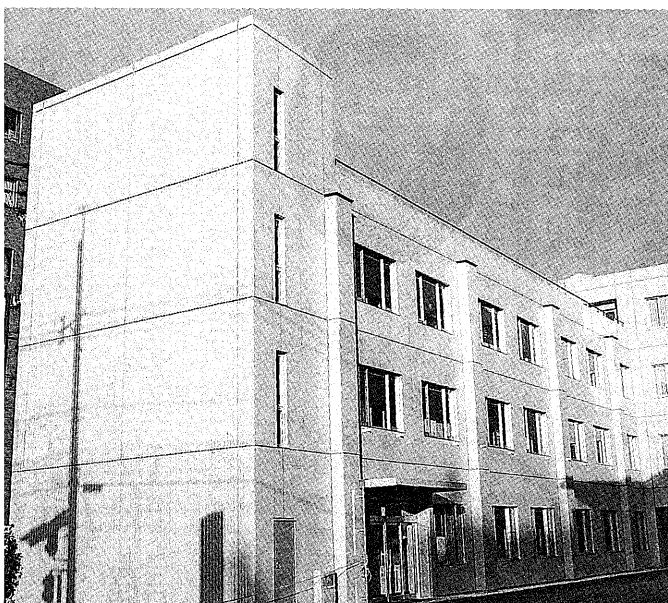
鹿児島市内一致祈禱集会
日時 1月25日(日) 14時～16時
場所 カトリック鴨池教会

【04年頭教書】

教区の司祭・修道者・信徒
のみなさん

新しい年の初めに、みなさんの上に神からの恵みと平和を祈ります。また、みなさんとともに、世界の平和を、何よりも戦争とテロによる流血の惨事が後を絶つよう、切に祈りたいと思います。

鹿児島教区は、司教区になってすでに四十九年、青年期をはるかに超えて熟年のさ中にあります。外国からの多くの宣教師や物心両面の援助によって支えられ育てられてきた教区は、今なお一部援助を



完成した本部棟



教会の教えを学び直しましょう

——ともに信仰を生きて広めるために——

鹿児島教区司教 糸 永 真 一

必要としてはいますが、これまでの恩返しに、自分でできることは自分でやるというはつきりした意識のもとに、自らの力と責任によって宣教活動を引き継ごうと努めています。海外に援助を求めず自力で完成した新カテドラルと教区本部の建設は象徴的ではないでしょうか。

第二バチカン公会議は、「これらの段階(教会の植えつけ)が終わった後にも、教会の宣教活動は終わらない。かえって、すでに建てられた部分教会(教区)がその宣教活動を続けて、まだ教会外にいる人々に福音をのべ伝える任務を引き受けるのである」(「教会の宣教活動に関する教令」六)と述べています。こ

かということですが。要理教育ないし教えの学習は全信徒の生涯の務めであり、神に逆らい信仰をむしろ多様な考え方や生き方が混在する現代にあつては、つねに信仰の理解を深め、より確かな信仰の感覚と識別の力を養い、より適切な言葉と行動をもって福音宣教に当たる必要があります。

広め、みんなでそれを読みながら、確信と喜びに満ちて宣教に励みたいと思います。

幸いにも、昨年四月に発刊された日本の新しい要理書『カトリック教会の教え』は、わたしたちみんなに要理のおさらいをする良い機会を提供しました。この要理書は、教会の現代化を目的として四十年前に開かれた第二バチカン公会議の教えを、信仰の遺産の新しいまとめとして、日本人が日本人のために日本語で書いたもので、日本司教団公認の大人のための要理書です。そこで教区ではこの一年、「教会の教えを学び直そう——ともに信仰を生きて広めるために——」を目標に、新しい要理書を一人でも多くの仲間

聖書は述べています。「キリストは、この世におられたとき、御子であるのに、数々の苦しみによって従順を学ばれました。そして完全な者とされたのです」(ヘブライ書五の八)。キリストの弟子であるわたしたちも、完全な者になるため、神の愛にこたえる道(従順)を学ぶのです。

終わりに、教区のみなさんに祝福をおくり、幸多かれと祈ります。

西暦2004年

明けましておめでとうございます

平成16年

鹿児島教区司教団

司教 糸 永 真 一
司教総代理 竹山 昭

鹿児島地区

小隈憲士(始良)、牧山田一(指宿)、小川靖忠(加世田)、泉 浩二(鴨池)、永山幸弘、末吉卓也(ザビエル)、J・ムーベルガ、有馬信茂、頭島 光、大松正弘(谷山)、G・サンタマリア(玉里)、小平卓保(紫原)、橋口啓悟(吉野)、O・ベルナルディーノ(種子島)、国原武志(国分)、松森孝郎(マリア山荘)、竹山 昭(教区本部)、福地幹男(純心聖母会鹿児島修道院)下村 徹(静養)、田辺 徹、成相明人(引退)、浜崎真実(出向)

大隅地区

M・ヴィゴロ、F・レナト(鹿屋)、東 研(大根占)、郡山健次郎(志布志)、田原 章(垂水)

北薩地区

W・フリチエル(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシャー(入来)、J・レヒナ(大口)、J・ハンマ(川内)

大島地区

大野和夫(地区長館)、浜田盛茂(大笠利)、寝占敦之(瀬留)、美島春雄(大熊)、中野裕明(名瀬聖心)、木村敏彦(知名瀬)、西本仁史(古仁屋)、坂谷豊光、内野洋平(古田町)

徳之島地区

福岡英雄、石田 望(母間)、T・メニッヒ(和泊)

司教評議会

糸永真一(会長)、竹山 昭(副会長)、小川靖忠(事務局長)、木村敏彦、永山幸弘、郡山健次郎、泉 浩二、頭島 光、大松正弘、西本仁史、M・ヴィゴロ

百八十八殉教者の

列福申請の実情

川内殉教祭での溝部司教の講話要旨



今日はレオ七右衛門についてというよりは、日本の百八十八殉教者列福申請の実情をお話ししたい。

日本で百八十八人が選ばれた経緯、それを通して日本の教会に何を求めているのか、日本教会全体での動きとローマの動きを紹介し、この殉教祭のあり方に関して問題提起をさせてもらえば嬉しい。

なぜこの百八十八人か

私はこのたびの列福申請に、司教団の委託を受けた歴史調査委員会の一員として二十数年前から関わってきた。同委員会が最初に検討したことは、多数の殉教者がいるなかで誰を列福したいのかを決めることだ。

日本には名前、場所、日付が判明しているだけでもおよそ五千人の殉教者がいる。名前などが不明だが殉教の事実が判明している者を加えれば二万から四万人になるといえる。そこで今回の選択の基準を決めた。(1)日本全国を網羅する(2)老若男女を網羅する(3)日本人を優先する、の三つである。

(1)は、殉教者といえはすぐに長崎が挙げられる。しかし他教区にも殉教者はいる。できるだけ全国から拾いたい。そのためには各教

区の司教方の熱意が問われることになる。(2)では、司祭や修道者だけではなく、男女の信徒や子供もいるので、それらをできるだけ取り上げる。(3)は、これまで列福・列聖されたのは、当然のことながら、外国人宣教師が多かった。近年日本人の司祭たちのことも詳しく調べられてきた。今回はできるだけ日本人を優先することにしたい。

一人の殉教者の後を追うにも膨大な資料と勉強が必要だ。百八十八人分を準備するのは大変なことだ。これが五千人、一万人分となればほとんど不可能になる。こうして今回は百八十八人に絞ることになった。

歴史調査委員会の作業の次には法制委員会ができた。歴史調査委員会が出した記録すべてに目を通してサインする。それをローマに送った。およそ五百頁のものが二十冊ほどになった。

日本の熱意が伝わらない
ローマでは送られた調査記録を責任をもって一冊の本(ポジティブ)にまとめる。その担当者を「ポストウラトル」と呼ぶが、アウグスチノの司祭を一人頼んだ。それができると五十人分くらい印刷し専門家に読んでもらい、専門の立場からコメントをもらう。それをまたまとめて教皇に提出する。こうした専門家とのやり取りと最後のまとめ

帰ってきた。
私たちも各地の殉教祭を広報に載せて中央協議会に集めローマにも発信したい。このような殉教祭を行うことが非常に重要だ。それを通して日本の教会の信仰を深めることが大切だと思う。

来年一月中には五十人の専門家に読んでもらうことになるので、早く読んでくれるよう催促し最後の過程である教皇様の手許に、お元氣なうちに届けたい。

この二十年間には国内で困難もあった。(1)基本的に日本教会内に、列福とか列聖とかは不要である、との考えがあること。殉教よりも「転び」を語るといふのがいまの雰囲気だ。確かに文学など転んだ人の心理、弱者の心情を主題にするのは理解できる。しかしその背後に殉教していった人のあり方を軽んじるというのなら肯定できない。

殉教者たちもまどい、疑いがあり、ぎりぎりでの決断があったと思う。しかしそれでも最後には信仰を告白し、信仰のために死を受け入れた。最後には主キリストを信じて命を捧げた。そこに価値を見出した。そこに私たちの信仰の基盤を見出してほしい。列福運動はそういう捉え方をしている。

(2)もう一つは、殉教の記録はほとんど教会側の人の手になる。美化して書いていないか、という点も。確かに教会側の記録が多いが、それ以外の人の記録もある。また教会側の記録と言っても千差万別、いずれも調べてみれば実際の目撃者の手になるものと言わざるを得ない。ペトロ・カスィ岐部の場合、その記録は迫害側の井上筑後守の手になる記録。簡潔で客観的なもの。その殉教の事実が紛れもなく描かれている。だから「ペトロ岐部と百八十七人の殉教者」とした。

(3)他に、政治的な理由がからんでいるので必ずしも殉教とは言えない、という人もいる。確かに多くは政治的な事情が背景にある。しかし、そうしたなかで結局死を受け入れるのは「信仰のゆえ」であることがこの度の人々に関しては分かつている。

殉教者が語る

最後に、殉教者が語りかけているものは何かを簡単に述べて結びたい。

(イ)死をもつてもイエス・キリストを宣言すること。つまり黙って自分だけで信じていればよいというものではない。辛いときもしっかりと生きていくことによる証しの大切さ。

(ロ)死をもつて生きる。つまり、確固たる信念を持つて生きること。

(ハ)イエス・キリストを宣言する。何でもよいのではない。キリストをこそ証しする。

<KABAYAN SEKSIYON>

PAG-ASA NG LAHAT ANG PAGSILANG NG PANGINOON

Mga KABABAYAN ko ang mensahe ng Pasko ay Kapayapaan. Ipinadala ng Diyos Ama ang kanyang bugtong na Anak para magdala ng kapayapaan sa lahat ng tao sa mundo. Bilang tagapagdala ng kapayapaan, si Jesus ay bumababa dito sa mundo. Ang kapayapaan na ito ay may malalim na kahulugan sa simula at katapusan sa buhay ni Jesus. Nang si Jesus ay isinilang sa Betlehem, ipinahayag ng Anghel sa mga pastores ang mensahe "Luwalhati sa Dios sa kaitaasan at sa lupa'y kapayapaan sa mga taong may mabuting kalooban", at sila'y nagpuri sa Diyos.

Nang muling mabuhay si Jesus pagkatapos ng tatlong araw, nagpakita Siya sa kanyang mga alagad at sinabi niya "Ang kapayapaan ay sumainyo, tulad na ako'y ipinadala ng Ama sa mundo, ipinapadala ko rin kayo".

May malaking misyon ang misteryo ng pagsilang ni Jesus. Ang kapayapaan na ibinigay sa atin ay tanggapin natin sa kailaliman ng ating mga puso at magdala ng tunay na kapayapaan sa lahat, lalung-lalo na sa bawat pamilya at sa lahat ng tao sa mundo.

Kaya mga KABABAYAN ko, mag-galak tayo at magpuri sa Diyos na mapagmahal dahil sa Kanyang Bugtong na Anak na si Jesus na ating tagapagligtas.

Inaasahan ko na ang bawat isa sa inyo ay mapunuan ng tunay na kaligayahan at kapayapaan ngayon Pasko.

MALIGAYANG PASKO SA INYONG LAHAT AKING KABABAYAN

Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax 09972-2-0423

keitai: 090-2085-1094

会と催し (1月)

5日(月) 女性信徒の会読書会・教区本部会議室・10時

▼教区本部会議・司教館・14時

▼教区司祭会・司教館・16時

25日(日) キリスト教一致祈禱集会・鴨池教会・14時

26日(月) 司祭評議会総会・教区本部会議室・14時

▼司祭大会開始・かごしま第一ホテル・18時・29日まで

29日(木) コンベンツウス・かごしま第一ホテル・9時

【祈禱の使徒会】

一般・すべての人は神の唯一の家族のメンバー
布教・司牧活動に携わる人々の養成
日本の教会・世界の平和のために

【十字架の使徒会】 教区民の信仰の高まり

小平卓保著

「聖書散歩」再刊

一九八五年に女子パウロ会から単行本として出版された同書が、この度、聖母の騎士社から聖母文庫の中の一冊として再刊された。手軽な値段で、聖書の森を「散歩」したい方には喜ばれよう。定価八〇〇円

京都のお寺巡りと

キリシタン縁の地を訪ねる旅

期間 3月15日～17日

主催 他宗教対話の会

世話人 上野千穂子(☎〇九九―一二二―二二七五) グローバルユースビュロー内

カバイヤンセクション(概要)

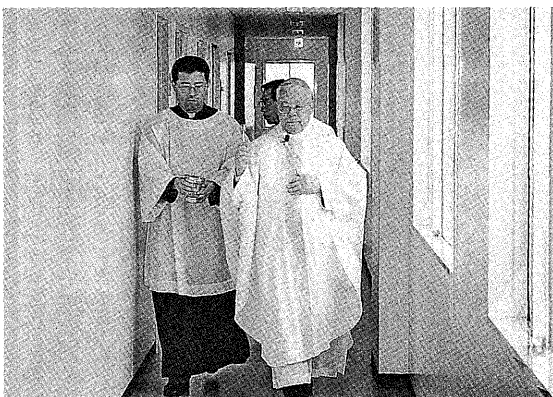
キリストの誕生、私たちの希望仲間たち、クリスマス・メッセージは平和です。それは平和をもたらすために神が御独り子イエズス・キリストをこの世に送って下さったからです。ですから私たちの使命は家庭の中に平和を保ち、全世界の人々に平和の光を輝かすことです。

今年のクリスマスがあなたの方の心を喜びと平和で満たしますように。

カテドラル建設工事をすべて終える

教区本部棟が落成祝別

建設が進められていた教区本部建設工事が終了し、その落成式が十一月二十四日(月)午後行われた。式には工事、教会関係者など二百余人余が参列し、本部棟の完成を祝うとともに、本部とカテドラルが協力し合って教区における宣教基地としての役割を果たすことができるよう祈念した。



聖水を撒き本部棟を祝別する糸永司教

司教座教会と教区本部が一体となつて教区の中心的役割を果たすという理念のもとに、これまで司教館と司教館に隣接した研修センターにあった総務部、会計部、学校法人事務

所、広報部、青年団事務所、教区図書室が、閉園されたザビエル幼稚園跡に設置されたのは一九八七年三月。その際、教区本部機能に新たに企画推進部、信徒使徒職教区協議会事務局、相談電話が設置された。

〇㎡、四階部分一九七・二㎡で総工費二億五千万。新本部棟を祝別した糸永司教は、みことばの祭儀の中で「キリストの命令を

教区のある方について示唆を与えた。このほか式典では本部棟入口横に建てられたザビエル幼稚園のモニュメントの除幕が卒園生代表によつてされたほか、同幼稚園最後の園長を務めた竹山昭神父が閉園に至る経緯を紹介した。また、設計を担当した高橋新一さんと建築に当たった竹中工務店竹中統一

内神父は、ミサの説教で自らの召命について概ね次のように話し、参列者たちを励ました。

命に祈ってくれていた。召命を果らせるには本人が神からの呼びかけにこたえることと、また必死になつて祈ってくれる人がある、というこの二つのことが一つにならないといけない。皆さんの家族の中から、司祭、修道士が誕生するようこのミサで祈ろう」

山内神学院長招き

召命祈願ミサ

山内実長崎カトリック神学院院長を招いての召命祈願ミサが、十二月七日(日)午後五時からカテドラルでささげられた。この

ミサは危機的状況にある司祭・修道者の召命のために祈ろうと教区の召命委員会が主催したもの。ミサは糸永司教主司式でささげられ、集まった修道士、信者

召命が成就するにはこれだけでは足りない。その召命を果らせるために必死に祈ってくれる人が必要。私の場合は祖母が幼い頃から懸

純大に大学院 鹿兒島純心女子大学(稲井道子学長)に、大学改革の締めくくりとしてこの四月から大学院(男女共学)が開学する。設置されるのは人間科学研究科心理臨床学専攻。試験は二月二十七日(金)、同大学川内キャンパスで実施される。



十二月十四日(日)午後、作家で脚本家でもある市川森一さんを講師に招いての市民クリスマスがザビエル教会であった。会場には大勢の市民が集まり、市川さんの講演「幸福の使者」や宮崎カリタス修道女会の聖歌隊「スモールクワイア」の歌声でひと足早いクリスマスを味わった。

高齢者等対策準備室設立趣意書

日本カトリック看護協会鹿兒島支部(支部長 松村精子)会員が過去数年、鹿兒島地区信徒の血圧測定や健康相談を行って

合つて日常生活の出来る場がほしい、という意見を多数頂きました。これらの意見を具体的に行動に移していく方法はないものかと、看護協会会員、信徒の有志や賛同する人たちが集まり、話

題の取り組みに乗り出しました。定期的な会合を重ねた結果、将来的にはNPO(特定非営利活動法人)を設置し、高齢者、障害を持つ人々、一人暮らしの方々、小さな人々が安心してお互いに、霊的な交わり

【賛同団体】日本カトリック看護協会鹿兒島支部
【賛同者】稲村直大 押川龍夫 川野数輝 澤やエ子 武川眞理枝 徳永善博 二田正章 二田レイ子 藤山義和 松下正美(五十音順)

短信

▼谷山教会堅信式 十一月二十日(日) 堅信式があり中学生と大人の合計六人が受堅の恵みにあ

▼信仰養成委員会 第二十三回信仰養成委員会が十二月七日(日)午後二時から教区本部会議室で開かれ、今年後期の活動報告と来年の計画について意見を話し合った。

▼徳之島で堅信と島内巡礼 十一月三十日(日) 徳之島カトリック教会では恒例の島内巡礼を行った。巡

▼鹿兒島市民クリスマス 十二月十四日(日) 午後、作家で脚本家でもある市川森一さんを講師に招いての市民クリスマスがザビエル教会であった。会場には大勢の市民が集まり、市川さんの講演「幸福の使者」や宮崎カリタス修道女会の聖歌隊「スモールクワイア」の歌声でひと足早いクリスマス

小さく貧しい祈りの集いのメンバーが

パドレ・ピオの集い開く

十一月二十四日(月)午後一時から名瀬聖心教会で初めての「パドレ・ピオの集い」が開かれました。テレホンサービスのペトロ神父を招いてのこの集いは、待降節を迎える準備として奄美大島の「小さく貧しい祈りの集い」のメンバーが企画したもの。このグループは三年前に組織され、毎月第一、第三の水曜日に聖心教会で午前九時半から十時半まで、聖書朗読、ロザリオ、ゆるしの秘跡、霊的講話を聞くという活動を行っています。目的はイエズスさまの聖心が少しでも人々の生活の中に浸透するためのお手伝いです。

午後一時から始められた「パドレ・ピオの集い」は初めに講師のペトロ神父さまが「パドレ・ピオ」についての説明をなさいました。「パドレ・ピオ」とはイタリア語で「ピオ神父」のこと。ピオ神父は一八八七年五月二十五日、イタリア南部の田舎町・ピエトリチーナに生まれました。彼は十五歳でカプチン・フランシスコ修道会に入り、五十二年間、南イタリアのサン・ジョバンニ・ロンド修道院で過ごしています。彼の主な務めは、朝から晩まで信者の告白を聞くことでした。彼を有名にしたのは、何と言つても聖痕。ピオ神父から五十年間、傷が消えることはありませんでした。その彼は一九六八年九月二十三日、八十一歳でその生涯を閉じました。彼は苦しむ人、祈る人、そして孤独の人であり、その一方では彼は近代的な病院「苦難救済の家」を建てるなど活動家でもありました。そして現在、ルルドへの巡礼よりもサン・ジョバンニ・ロンド修道院にある聖パドレ・ピオ



ペトロ神父を囲んで記念撮影

孤獨の人であり、その一方では彼は近代的な病院「苦難救済の家」を建てるなど活動家でもありました。そして現在、ルルドへの巡礼よりもサン・ジョバンニ・ロンド修道院にある聖パドレ・ピオ

の墓を訪れる人が多いとのこと。講話の後聖体顯示がされ、引き続きロザリオの祈りが行われました。ロザリオの間、ペトロ神父さまは祭壇にひざまずいておられました。そして信者さんとの交代でお祈りを唱えられるというとても神秘的なものでした。その後休憩の後、ゴミサがささげられました。ペトロ神父は説教でパドレ・ピオがつねに要求されていたことに次の五つを挙げられました。

- 一、煉獄の靈魂のために祈りましょう
- 二、煉獄の靈魂のために祈りましょう
- 三、教皇さまをはじめ、教会を見守り従順でありましょう
- 四、聖母マリアへの正しい信心、ロザリオができれば、引き続きロザリオの祈りが行われます。
- 五、ご聖体をもっと大切にすることができまうに

ごミサでこの日の集いは終わりました。参加者の一人は「沢山の人が集まり、まるで父と子と聖霊がそこにおられるようで、祈るほどに聖体、司祭、信徒が一致してくるのを感じ目頭が熱くなるほどでした。本当に充実した時を過ごせ、喜びに満たされました。」と感想を語ってくれました。



島内巡礼と堅信式

和やかな雰囲気、徳之島地区教会

十一月三十日に徳之島の下志教会で糸永司教の司式により堅信式が行われ、六人の受堅者(大人三人、子供三人)を集めた約百二十人の信徒が囲み、堅信の恵みを祝った。前日は母間教会に多くの信徒が集まり、食事とともに懐かしい話や歌や踊りで司教を歓迎した。当日は徳之島で毎年行われる島内巡礼の日で、十二人程の信徒は強風が吹く中を母間教会から下志教会まで約四キロの道をロザリオの祈りとともに歩んで堅信式のミサに臨んだ。こころまりと

勢ぞろいの信者たち

文芸

短歌

コスモスの花を手向けて祈る子
母よ見給へわが孫の顔
大口 森 博伸

(評) 花を手向けて祈る小さな手が清しく表白され、初々しい祈りの歌です。

俳句

秋風に蝶の舞いおりピエタ像
孫飾る野菊一輪マリア像
始良 田中サツキ

(評) 「野菊」一輪が光っています。

始良 田中サツキ

幼児は司祭の祝福受けんと
喜々と走りぬ聖堂の中を
(評) ミサにあずかる幼心が出ています。臥す友の祈りの歌も佳作です。

鹿兒島 本城 愛

馬小屋に眠れるご像囲みつつ
子らイエスの誕生祝ふ

鹿兒島 田平新太郎

確かなる神のみ国にとどく位置
求め求めて古希となりけり

俳句

秋風に蝶の舞いおりピエタ像
孫飾る野菊一輪マリア像
始良 田中サツキ

(評) 「野菊」一輪が光っています。

鹿兒島 本城 愛

差羽ゆく南の空のあかね雲
山茶花に一夜の風の残り花
(評) 「南の空のあかね雲」に深遠な祈りが包まれています。

鹿兒島 龍門司真人

群青のロザリオに触れ初祈り
里山と呼ぶ父母の山竹の秋

絆を深めよう

九州の青年が会議

「九州の青年達のつながりを持とう」と始まった九州青年キャンプ。これをもっと魅力あるものにしていくと十一月二十九〜三十日に話し合いがあり、福岡・熊本・長崎・大分・宮崎・鹿児島から約三十人の青年達が、福岡の光ヶ丘教会に集まった。鹿児島からは四人の青年が参加した。今回はまず、今年の八月に行われたキャンプの会場となった宮崎の青年からの報告・反省があり、これを踏まえて前回(鹿児島)・前々回(長崎)のキャンプを振り返り、これから



をもっと広げていくにはどうするかという課題も話し合われた。来年度の第四回九州青年キャンプは福岡で開催される事が決まった。話し合いの後は、食事しながらそれぞれの教区や教会、ボランティアグループの活動の様子など情報交換やそれぞれの想いを分かち合った。鹿児島からの参加者達も各地の青年たちとのふれあいを通じて自分達の活動について、教会での役割について考えさせられたようだ。教区や地域を越えた活動を通して、青年たちが教会や地域社会においてキリスト者としての役割を見出し、いくことに期待したい。参加者達の感想を次回掲載いたします。

会員募集

思川短歌会・俳句会

あなたの祈りの短歌、俳句を毎月三首、三句以内を書いて会宛にお送りください。
千八九〇一〇〇六四 鴨池新町三五一四〇二
田平新太郎方(☎〇九九二五五二四二六二)
思川短歌会 思川俳句会

して温かみのある下志教会に集まった信徒達が一生懸命聖歌を歌うミサの中で、糸永司教は「堅信によって道・真理・命であるイエスとより強く結ばれる」と話した。ミサの後は持ち寄った食事を囲んでの昼食会を開き、そこでは信徒達が巡礼やバザーの報告や受洗時の話の発表もあり、和やかな時間を過ごした。また、鹿兒島教区の殉教者列福推進委員の石田幹雄氏も同席して、殉教祭の事やレオ七右衛門の受洗時の心境などを分かち合った。今回の徳之島への司教巡回で、徳之島独特の温かみと協力する美しさに接した。宣教百周年の時ほど大きな集まりではないが、信徒達の中にはあの時の決意や情熱が今もすっかり残っていることを感じる事が出来た。(報告・久保直基)